

塚田和美國府台病院副院長が医療功労賞を受賞されました。

医療功労賞は、極めて困難な医療環境や地域の医療向上等に努め、長年にわたり医療に従事した者、及び海外等の医療・災害現場で献身的に職務に励んだ者の中から、特に顕著な功績を挙げた者を表彰するものです。

この「第39回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省・日本テレビ放送網後援、エーザイ協賛)の千葉県表彰者に、塚田副院長の功績(24時間精神科救急開設)が認められ、めでたく受賞されました。表彰式は平成23年2月3日に千葉市内のホテルで行われました。

塚田副院長は、昭和63年に国府台病院に着任後、精神科の急患を24時間受け入れる先進的な精神科救急の開設に尽力され、その功績がここに認められたものです。現在、国府台病院では年間2000人を超す時間外救急の搬送を受け入れています。

また、平成15年には、米国のケースを参考に「ACT(包括型地域生活支援)」を全国で初めて導入するに至り、看護師らとチームにより重症者の巡回訪問を行っています。

2011年(平成23年)2月1日(火曜日)

頁 第 報 新 日

医療功労賞 県内から6人

長年、地域に根ざして活動してきた医療関係者を表彰する「第39回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、エーザイ協賛)の受賞者が決まり、県内から6人が選ばれた。表彰式は3日午前11時半から、千葉市中央区のホテルプラザ葉の花で行われる。受賞者に喜びの声を聞いた。

24時間の精神科救急開設

国立国際医療研究センター
国府台病院副院長
塚田和美さん 59
(市川市八幡)

千葉大医学部卒業後の1977年、精神科医となつて以来、患者の心のケアに力を尽くしてきた。民間病院勤務を経て88年、国府台病院に担任。先遣医師らと、急患を24時間受け入れる先進的な精神科救急を開設し



た。当時、夜間の急患は当直医が対応し、診察を間違

えれば自殺など最悪の事態を招く状況にあった。そうした患者を助けたい一心で始めた精神科救急では、年間2000人を超す時間外

患者が搬送され、「寝る暇もなく診察にあたった」と振り返る。
「医療を追究する職人でありたい」との思いから、2003年には、米国のケースを参考に「ACT(包括型地域生活支援)」を全国で初めて導入。看護師らとチームをつくり、重症患者の巡回訪問を行っている。都市化が進む市川市では自殺者も多く、「対策ネットワークを作りたい」と予防策にも取り組む。